

## 「音楽の力」を信じて、奇跡のオーケストラの話

校長 松本 雅史

先週、五小SDGsフェスティバルがありました。コロナ禍でこうした催しがずっとできないでいました。しかし、長い空白があったとは思えないほど、どの学級も創意工夫を凝らし、そして今回のテーマでもあるSDGsを意識したとても意味深い取組になったと思います。本当にお疲れ様でした。また、昨日は、小平市少年少女マラソン大会でした。頑張って挑戦した皆さん、本当によく頑張りました。東部公園では、みんなでデパートがあり、五小おどりたいが出演し、催しのオープニングを飾りました。元気いっぱい踊り、とてもよかったです。

さて、今朝はもうすぐ音楽会ということで、音楽についてお話しします。今朝紹介するのは、世界から争いをなくしてみんなで仲良くしていこうということ。「音楽の力」ですすめようという指揮者とオーケストラのお話です。

今、世界では悲しい争いが続いています。ウクライナやコソボのニュースは毎日のように聞きます。その度につらく悲しい気持ちになります。そして、ニュースでは流れないけれど、こうした人と人々が破壊し合い殺し合う悲惨な争いは、今、世界で100を超えているのです。

およそ20年前まで、ヨーロッパにユーゴスラビアという国がありました。この国は、今はもうありません。この国は、もともと6つの共和国からなり、1つの国でありながら言葉も4つもあり、人々が信じている宗教も3つというとても複雑な国でした。そして、その違いを乗り越えて、せつかくひとつにまとまっていた国だったのですが、今から32年前の1991年、自分たちだけの国をつくりたいと願う地域が、国をつくるための戦争を起こしました。こうしたことは、ユーゴスラビアの各地で起こり、その戦争は、せつかく仲よくなろうとしていた人々の心の中から昔の憎しみ合っていた気持ちを思い起こさせました。これまでご近所さんとして仲良くしていた人同士が、民族が違うから、信じる宗教が違うから、さまざまな理由で殺し合うというむごたらしいことも

起きました。あなたは、～人だからこちらの町には来るなどか、この町から出て行け、ということもあちこちで起きました。この戦争や人々のいさかいで、多くの人が大事な家族を亡くし、家や財産を失いました。こんな戦争はやめろ！という世界の声もあって、2001年にこの戦争は終わりました。ユーゴスラビアという国はなくなり、そこにはスロベニアやクロアチアなど7つの新しい国が生まれました。せつかく自分たちだけの国ができたのですが、そこには喜びよりも深く傷ついた心、そして破壊された町や村が残ったのでした。戦争は終わっても、殺し合った民族同士の憎しみは一人一人の心に深く刻まれました。

そんな、旧ユーゴスラビアに一人の日本人オーケストラ指揮者がやってきます。柳澤寿男さんといいます。柳澤さんは、ばらばらになり、憎しみ合っている人々の心を音楽であたたかく結びたいと考えました。何と、これまで争い、殺し合ってきた旧ユーゴスラビアの各地に生き残っていた音楽家の方々を集めてオーケストラをつくってしまったのです。はじめは、挨拶どころか目を合わせることもできなかった楽団員さんもいたといいます。この戦争で家族を殺されて深い悲しみに耐えて生きている人もいました。そうした人々の心を音楽で1つにまとめ上げたコンサートは、とても感動的だったといいます。このオーケストラの名前は「バルカン室内管弦楽団」といいます。

このバルカン室内管弦楽団が、今年の秋に4年ぶりにフルメンバーで来日してコンサートをを行います。

さらに嬉しいのは、このオーケストラが、1日だけ練習会場として小平第五小学校の体育館を使わせてくれないかとお願いしてきたのです。一流のプロの海外のオーケストラが学校の体育館で練習だなんて、びっくりしています。この練習の様子は、非公開なので皆さんに見せてあげられないのがとても残念なのですが、こんな素晴らしいオーケストラを私たちの小平に、それも五小にお迎えして、使っていただけるなんて嬉しい話ですね。

みんなも音楽会の練習まっただ中ですね。人と人の心をつなぐ音楽、世界に平和の心を広げる音楽を私たちもつくっていきたいですね。これで、今朝の話を終わります。



かつてユーゴスラビアと呼ばれた国は、  
ここにありました。





戦争で破壊されてしまった町の様子



<クロアチアのドゥブロヴニク旧市街>

町全体が世界遺産になるほどの美しい町並みです。

もともとは、こんなに美しい国だったのです。



指揮をする柳澤寿男さん



バルカン室内管弦楽団のみなさん